

入選

「思い出しつばさ」

岡山県

倉敷市立富田小学校 五年

兼信 勇輝

ぼくは、今年の夏休み、トルコの Cappadocia という所に連れて行ってもらいました。Cappadocia で、地下都市といういせきに行ったり、奇岩のギョレメ博物館に行ったり、気球に乗ったりしました。ぼくのお父さんはトルコ人で、日本人のツアーのガイドの仕事をしています。それで、Cappadocia には年に何回も来ているそうです。

夏休み、ぼくはトルコに着いた次の日に、お父さんが予約してくれていた飛行機に乗って Cappadocia に行きました。空港からミニバスに乗ってどくつのホテルに行きました。お父さんは力持ちで、スーツケースやキャリアケースを一度に持ち上げて運んでくれました。ホテルの人はみんな知り合いで、ニコニコお父さんにあいさつをしていました。お父さんは家族が日本から来たんだとうれしそうに話していました。どくつのホテルは、名前の通りどくつをくりぬいて作ってあって、すずしくて、おもしろくて大好きになりました。こんなめずらしいホテルにとまれたのもお父さんのおかげです。

次の日、レンタカーを借りて車を走らせていると、あちこちに知り合いの人がいました。店の前を通る時や赤信号で止まった時にも知り合いの人がいると声をかけて、また、家族が日本から来たんだと話していました。ぼくは、ここがお父さんのがんばって仕事をしている場所だということがよくわかりました。また翌日、ぼく達は早起きして気球に乗りました。気球のそうじゅう土のおじさんもお父さんの知り合いです。気球は一時間ぐらい乗りました。その間お父さんは、家族や景色の写真やビデオをいっぱいとってくれました。

ぼくは今年の夏休み、お父さんが仕事をしている場所に連れて行ってもらって、お父さんが人々の間でどんなに感じよく仕事をしているのかよくわかりました。ぼくが日本で学校にいつの間にお父さんはトルコで仕事をしてお金をためています。そして、夏休みになるとあちこちにぼく達を連れて行って、多くの思い出を作ってくれます。お父さんが会う人ごとに、うれしそうにぼく達のことをしょうかいしているのを見て、ぼくはうれしくなりました。今までふつうにお父さんがしてくれていると思ってたことも、よく考えてみると一人でトルコにいて、ぼく達のためにとでもがんばってくれるのがわかってありがたいなあと思いました。今は、ぼくは勉強や運動や小さなお手伝いをがんばることしかできないけど、大きくなったら、家族のためにいろいろなことをしてあげようと思っています。

お父さん、いつもありがとう

ぼくが大きくなったら、今度はぼくが旅行に連れて行ってあげるね。